エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木（もっ）くん　～茶文化の源　水・緑・生命の環を育む和みのまち～

発行日：2022 年 12 月 1 日（第 93 号）　編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会
事務局　TEL（８８）６６３９　FAX（８８）３２３１

○２０２２年度秋の自然観察会を開催しました○

10 月 29 日（土）、秋晴れの中、末山・くつわ池自然公園において、主としてきのこ類を対象とした自然観察会を実施しました。会長挨拶に続き、きのこの生える場所、きのこの特徴、毒きのこなどについての解説を行った後、実際にくつわ池の周囲を歩きながら、周辺の山に足を踏み入れてみると、あちこちできのこが見つかりました。雨が少ない天候が続いていたため、きのこが無いのではと心配していたのですが、そんな必要はありませんでした。猛毒きのこのドクツルタケ（図 1）、昔中国の皇帝が不老長寿の薬として珍重していたマンネンタケ（図 2）、アカマツの周りに群生が見られたアミタケ（図 3）など、全部で 10 数種のきのこが見られました。

図１．ドクツルタケ

図２．マンネンタケ

図３アミタケ（撮影：波部）

全体で約２時間の散策の後、集合場所に戻り、採集されたきのこについての講評や質疑応答（図 4）の後、予定通り午前中で解散しました。「これは食べられるきのこでしょうか？」という質問には、「どんなきのこでも食べられる、少なくとも一度は！」という冗談を付け加えつつ、「オフィシャルな場では責任問題になるので、答えられません。」とし、あくまで自然を理解するための観察会なので、食べられるきのこを探す場ではないことも強調させていただきました。参加者は、定員 40 名のところ運営側を含めて 13 名と少なめでしたが（図 5）、きのこについては詳しく説明ができ、参加者の方々には喜んでいただけたようでした。もう、来年のことを話すのかと鬼に笑われそうですが、来年は場所を変えて、同様の自然観察会を実施できればと考えておりますので、町民の皆さん、是非ご参加ください。

図４．きのこについての講評（撮影：波部）

図５．参加者記念撮影

（自然・生活部会長　岩瀬　剛二）

冬の節電対策

2011 年の東日本大震災以来、停止された発電所復旧などの対策の結果、関西エリアでは今年１２月から来年２月にかけての電力予備率が５．６～７．４％確保できる見通しのようです。予備率とは電力需要に対する供給力の指数で、最低でも３％は必要で、これを下回ると「電力需給ひっ迫警報」などが発令され、最悪計画停電が行われかねません。実際、今年６月の時点では、１月は１．９％と危機的な予想でした。

最悪の事態は避けられるものの、ロシアのウクライナ侵攻による燃料供給が不安定化し、突発的な発電所のトラブルなどが発生した場合、再び現実のものとなるおそれもあります。また、今後も電気料金の値上がりも予想されるため、家庭でも無理のない範囲で節電を心掛けるのがいいでしょう。

電力会社では、国の節電プログラム促進事業により、節電した分ポイントを加算するキャンペーンを実施しています。

冬場の節電のポイント

- **エアコンのフィルターを掃除（２週間に１回）**
- **扇風機やサーキュレーターで部屋の空気を循環させる**
- **冬場は冷蔵庫の温度設定をゆるめる**
- **窓に断熱シートを張る**
- **炊飯器や電気ポットなどの長時間保温をしない**

COP27 に思う

２０２２年１１月８日、日本の空は珍しい現象の到来で大いににぎわった。

それもそのはず、皆既月食と天王星食が同時に起こるのは、天文学的には４４２年前（本能寺の変の２年前）、豊臣秀吉がまだ羽柴秀吉だったころの安土桃山時代にさかのぼり、織田信長が空を眺めていたかも、と考えるとやはり驚くべき現象である。

松尾芭蕉の言葉を借りれば、過行く年月は旅人のようなもの。そこに住む人間も、日々旅にして旅を栖（すみか）とする。

人間の営みははかないが、自然はほぼ永遠変わらないものである。

しかし近年、人間の活動が自然の営みを壊し始めている。顕著なのは地球温暖化、猛暑が何日も続き、暑さからの助走をすることなく寒さも急展開。

商い、飽きない、秋無いの日々が人々を苦しめる。

こんな折、温暖化防止対策の世界会議であるＣＯＰ２７（国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議）が開催され、話し合いが続けられている。人間が自然より確実に優れていることは、話し合える技能を身につけていることだと思う。

ところが、あらゆる局面において話し合いよりも、力ずくで物事を決めることが多すぎる。

悲しい人間の性（さが）かもしれない。

友人に強靭な意思を持ち、エコ生活をしている人がいるが、そこまではいかなくても不要な電気を消すなどして、子々孫々はもちろん、次の４４２年後も、未来の人類が皆既月食と天王星食の奇跡をゆっくり楽しんでくれるような地球であることを祈り、人間の良識を信じ、ＣＯＰ２７の成果を見守りたい。

（会長　芦原　昇）

※事務局注：次回、全国で皆既月食を観察できるのは 2086 年 11 月 21 日、惑星食が起こるのは 332 年後だそうです。

エコパートナーシップうじたわら賛助会員

宇治田原町　宇治田原工業団地管理組合　宇治田原町区長会

エコパートナーシップうじたわら事務局　（宇治田原町建設環境課内）
〒610－0289　京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1
TEL 0774-88-6639　FAX 0774-88-3231　Ｅメール：junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧いただけます

宇治田原町役場ＨＰ「MENU（くらし・手続き）」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

茶文化の源　水・緑・生命の環（わ）を育む和みのまち　宇治田原